

## 部会別 基本目標

**基本目標に向けた戦略及び実行者**  
(第5回かまいし未来づくり委員会発表内容)

## 基本目標（案）



# だれもが自分らしく健幸でいられるまち

### ☆検討背景

#### [基本目標]

元々基本目標案が4つあり、もう少し時間をかけてじっくり1つに整理するところから話し合った。

地域や年齢を越えて、釜石にいる誰もが自分らしく、身体的な健康寿命を延ばしていくだけではなく、みんなが幸せで心も健やかでいられるまちであってほしいと考えた。

#### [戦略・実行者]

①戦 略：オール釜石 横断的支援環境づくり

実行者：オール釜石（みんなで関わろう！）

福祉的な課題は行政だけ、社協だけ、住民だけでは解決が難しい。縦割りではなく、横断的に協働していきたい。

②戦 略：脱 脳卒中死亡率日本一～健康寿命日本一へのトライ～

実行者：医療、健康運動指導士、福祉

岩手県は脳卒中死亡率全国ワースト1位であり、岩手県の中でも釜石地域がワースト1位である。このような不名誉な1位は要らない。日本一からの脱却を目指して、医療機関や健康運動指導士、様々な福祉関係機関が一緒になってトライをしていきたい。

### ☆アドバイザーコメント

- ・このフレーズで良いと思ったが、「健幸」という字は本当に良いか心配である。
- ・気持ちはその通りであるが、ここで使うと基になり、計画に出てくる「健康診断」や「健康寿命」の文字もこの文字（健幸）にしなければなくなる。上位で使うと下位に影響が及ぶというのが基本目標の文字。
- ・気持ちを込めて使うと、市役所に対して今後「健幸」を使ってくれますよねの意思表示に見えるので、そこまでやるかどうか。基本目標で使うのではなく第2段階の戦略のところで（健幸）と使っても良いかなと思う。
- ・「健康寿命日本一へのトライ」は良いが、脳卒中死亡率を下げるることは戦略になるので、真ん中のところはあくまでも中間的な物の言い方で進めた方が良い。

# 教育文化部会



## 基本目標（案）

# 地域の人のつながりの中で誰もが育つまち

### ☆検討背景

[基本目標] ※前回から変更なし。

地域と人のつながりの中には、鉄を始めとした文化や歴史、そこから育まれた暮らしがある中に思いを込めた。子どもだけに限らず、世代を問わず、地域で育っていく状態をイメージしながら入れ込んでいった。学校教育においては、釜石市ではいのちの教育が推進されている。生涯学習も行われている。

### [戦略・実行者]

- ①戦 略：釜石らしい文化・スポーツの活用
- ②戦 略：防災学習（いのちの教育）の振興

### ☆アドバイザーコメント

- ・「〇〇が〇〇する（できる）まち」に当てはまっているが、6班の中で一番長い。削りようがない。
- ・戦略の「釜石らしい文化・スポーツの活用」について、「文化」と「スポーツ」は分けたらどうか。
- ・それぞれ分野は違うし、釜石は巨大な文化施設とスポーツ施設を作ったことから、今後それをどう活用していくのか、釜石らしい文化、スポーツ、学習のあり方に分けると、具体的な戦略が出てくると思う。
- ・ハードを使いこなしていく釜石の力を多くの人は期待していると思う。そこに対する施策を市内の方や市外の方に伝わるような作りにしていくと良いのではないか。

# 産業雇用部会

## 基本目標（案）



# 人が育ち人財が産業を育てるまち

## ☆検討背景

### 〔戦略・実行者〕

#### ①戦 略：海の可能性を追求

実行者：水産事業者

海、港湾、海洋資源の活用、海洋エネルギーなど、海としての可能性がある。産業としての可能性もそうではあるが、資源の持続可能性も含めてあらゆる可能性を追求していきたい。

#### ②戦 略：多様な人が活躍する

実行者：企業

人財の活用活性化では、新卒や若い人材に光が当たりがちであったが、お母さんの中でもスキルを持った人や高齢者の中にもまだまだ活躍したい人がいる中で、どこかに絞るのではなく、多様な人が活躍する場を作ることが目標としては大事ではないか。

#### ③戦 略：企業の活性

実行者：商工会議所、産業育成センター

地元企業が残っていく、生まれ変わっていくことも大事であるが、さらに大きな視点で新しい風を吹き込んでいく、新しい雇用を生んでいく場作りが大事。「地場」をあえて外して企業の活性という形にした。

## ☆アドバイザーコメント

- ・基本目標の中に文章が2つあり、目標に句読点を打つときれいではない。例えば「未来を担う人財と産業が育つまち」ではどうか。
- ・戦略について、活躍する人をどのように育てるのか。基本目標に「育ち」を使いたいということであれば、戦略にうまく埋め込んでいったほうが良いのではないか。
- ・今後10年間で従来のものではなく、新しい産業や新しい人が出てくると思われる。それをうまく目標の中に分かるような形で取り込むと、10年後の釜石がこういった産業や人達によって担われていることが分かるのではないか。

# 生活環境部会

## 基本目標（案）



### 環境にやさしく住みたくなるまち

#### ☆検討背景

##### [基本目標]

テクノロジーはどちらかというと戦略になるかと思い基本目標から外すことにした。「環境」という言葉をどうしても入れたくて、「環境」を入れると「やさしく」しか思いつかないという感じになった。「住みやすいまち」よりも「住みたくなるまち」の方が良いかなと思った。

##### [戦略・実行者]

###### ①戦 略：人のつながり

実行者：一般市民、企業、NPO等の非営利団体・行政・町内会・自主活動グループ

交通の問題が生活環境の中にあり、コミュニティの中で、ニーズを汲み上げて、互助で助け合い、解決していくのではないか。

###### ②戦 略：エネルギーの循環

実行者：一般市民、企業、行政

###### ③戦 略：自然環境の保護

実行者：一般市民、企業、非営利団体、行政、自主活動グループ

###### ④戦 略：テクノロジーの活用

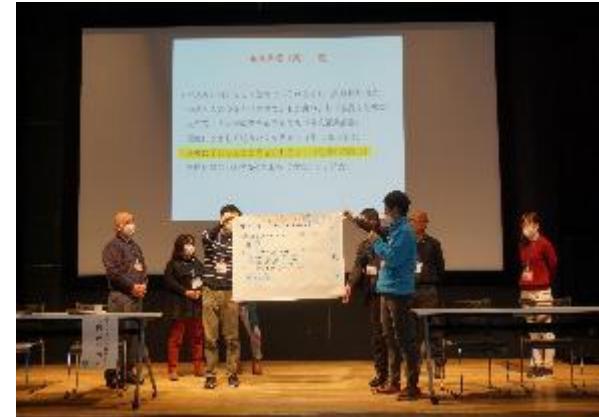
実行者：企業、行政

#### ☆アドバイザーコメント

- ・戦略がすごく良い一方で、基本目標はこれで良いのか。
- ・意味を変えずに「○○が○○する（できる）まち」に変えていきたい。
- ・今のままだと基本目標に意味が二つ（①環境にやさしいまち②住みたくなるまち）入っている。
- ・環境の他にも、人間にも優しいことは確かに必要あり、「住みたくなる」は「暮らしが実現できる」に置き換えることもできる。
- ・例えば「人と環境にやさしい暮らしが実現できるまち」ではどうか。

# 危機対応部会

## 基本目標（案）



# 過去に学びみんなが命を守れるまち

### ☆検討背景

#### [基本目標]

前回までの基本目標に鹿野さんからのアドバイスもあり、今回は「過去に学び」を付け加えた。防災のことを話していくと、ありふれた単語や今までと同じような単語が並んでくるが、今までやってきたことを変えたいと思い、基本目標に「過去に学び」を加えた。

#### [戦略・実行者]

①戦 略：防災まちづくり（ハード等）<公助>

実行者：行政（市民）（町内会）

実行者のメインは行政になるが、市民や町内会もハード面に対しても自分事として意見を言っていかなければならぬ。

②戦 略：防災訓練と避難訓練<共助>

実行者：全員

③戦 略：自主防災意識向上<公助>

実行者：全員

自分の命は自分で守る。受け身にならない。個々の意識を向上させ、地域に波及させていく。

### ☆アドバイザーコメント

- ・「命を守れる」なのか「命を守る」なのか。「守れる」だと可能性があり、できるということに繋がる。「守る」でも悪くはないかなと聞いていた。
- ・「自助」「共助」「公助」の考え方は良い。戦略②③は施策になるので、ミドルの部分はそれらをカバーできるような言葉をひねり出していただきたい。

# 地域づくり部会

## 基本目標（案）



# 全市民参加いわて№1のまち

## ☆検討背景

### [基本目標]

前回、基本目標を二つ（①多世代と一緒に作るまち②次世代に未来を引き継ぐまち）出していたものを一つにまとめた。色々な意見を出し合ったところ、「市民参加型のまちをつくっていきたい」ということに気付いた。全市民参加に目標（いわて№1）も加えた。

第1回目に配付されたアンケートの中で、市民参加型で作ったほうが良いという回答が上位になっている。市と市民が半々というのを含めると、7~8割がそのように感じている一方で、実際に活動に参加しているかという設問に対しては、低い割合であり、今後の釜石にとって大きなテーマになる部分だと思う。

## ☆アドバイザーコメント

- ・ 基本は6部会の言葉の並びを出来るだけ同じようにした方が良いと思いながら聞いていた。
- ・ 大体「○○が○○できる。」「○○が○○する（できる）まち。」というような言い方をしている。
- ・ 少しアレンジすると、他と並びが良くなる。コンセプトはすごく良い。
- ・ 「全市民参加いわて№1のまち」だと少し硬い。漢字が5個続いているので厳しい感じがするので「全ての市民」などでも良い。
- ・ 基本目標に「多世代」「次世代」の2つを落とし込んできたのは良い。戦略はセカンドであり、この後サードにもっと具体的な政策が入ってくる。
- ・ 「次世代」という言葉を使うのはすごく良いと思う。